

あつぎ郷土博物館企画展 開催要領

1 名称

火之用心 –あつぎの秋葉信仰–

2 趣旨

火は人の生活に大いに役立ってきましたが、注意を怠れば火災となって大きな被害を出し、あつぎにもその記録、記憶が残されています。秋葉信仰は、人々の火災に対する恐怖から広まりました。

この度、灯火具コレクターとして知られる加藤芳明氏の資料が厚木市に寄贈されることになりました。これを記念して、火伏の信仰対象である秋葉山の掛軸、守札を中心とする展示会を開催いたします。火伏信仰は、火災など火難から人を守護する神仏に対する信仰です。愛宕、古峰ヶ原を対象とするものも多いのですが、厚木では秋葉山への信仰が圧倒的でした。

歴代秋葉山主が揮毫した「火之用心」の掛軸、三尺防など多様な神仏が描かれた火伏の守札によって、その全貌を紹介します。

現代の消火方法は、類焼を防ぐ破壊消防が中心であった時代から、大変な進化を遂げています。火災に対する人々の考え方も、時代とともに変わっていきます。その移り変わり、火の神聖性への理解を深めることのできる展示会を開催いたします。

3 展示構成

prologue 秋葉信仰とあつぎ（廊下ギャラリー、展示室中央）

- ・火伏の神仏とあつぎ/秋葉社 5 社、石造物 13 基、講中 21
- ・秋葉社を勧請する/秋葉講と秋葉灯籠
- ・秋葉山への代参/万延元年 熊坂村（愛川町）の秋葉参り

(1) 秋葉信仰とは 秋葉山縁起の世界

- ・秋葉信仰と三尺坊/秋葉山縁起について
- ・三尺坊の御姿/「塩尻」（天野信景）、「榎寺縁起」などから

(2) 可睡齋と光明山 「火之用心」以前、以降

- ・可睡齋、光明山、秋葉神社と秋葉寺/「両参り」「ついで参り」
- ・貞享 2 年の秋葉祭と幕府禁令
- ・秋葉山主/38 世 義孝任梁「龍」の頃
- ・秋葉山の神仏分離問題

(3) 火之用心 歴代山主の書①

- ・歴代山主の「火之用心」/可睡齋 39 世 泰栄逸堂、41 世 任柱泰礎、42 世 祖山觀光、43 世 祥鳳舜瑞、44 世 鼎三則一、45 世 慧超泰禅、46 世 帰雲春倪

(4) 火之用心 歴代山主の書②

- ・可睡齋 47 世 穆山瑾英/曹洞宗管長の火之用心
- ・穆山瑾英/「正法眼蔵読紘講義」著者、天才書道家・川村驥山の師
- ・木版に移行する「火之用心」掛軸

(5) 火伏の神仏いろいろ

- ・あつぎの龍 /清源院 32 世 徳成法運（明治初年歿）の「龍 火伏八大竜王」（相河之西古禅林法運書）、井上五川、唯念（念佛行者）
- ・愛宕山、古峯ヶ原と火伏
- ・御札にみる火伏の神仏/烏天狗・三尺坊、聖観音（可睡齋）、須佐之男尊（秋葉神社）、迦遇突知神、火産霊神、飯綱三郎、金毘羅、愛宕、陀祇尼天、大黒天、摩利支天、南無阿弥陀仏

epilogue 火伏グッズいろいろ/火之用心の工夫（展示室中央）

- ・火之用心の御札、火打金、御神酒徳利など
- ・引き札、浮世絵、書、軸など

4 会期(予定) 令和6年1月13日(土)から3月3日(日)まで

5 会場 あつぎ郷土博物館 1階特別展示室、エントランスホール

6 主催 厚木市教育委員会

7 協力 神奈川県立歴史博物館、松蔭大学資料館、岡崎市美術館、秋葉神社（静岡県周智郡春野町）、可睡齋（静岡県袋井市）、田村貞雄（静岡大学名誉教授）、武井慎吾（駒澤大学）、小林 克（松蔭大学）、佐藤真人（國學院大學日本文化研究所）、川村忠伸（日本山岳修験学会）、伊藤宏之（台東区教育委員会）（順不同、敬称略）

8 関連事業 *場所は、あつぎ郷土博物館1階体験学習室 他

(1) 関連講演会 田村貞雄、武井慎吾 他の講演を予定

(2) 体験講座 灯火具（鼠短徑など）をともす 等を予定